

奈良女大生活環境 ○瀬戸致子 諸岡英雄
富山大教育 諸岡晴美

【目的】快適な肌触りを有するパンティストッキング（以下PSとする）の設計に役立つ基礎資料を得ることを目的として，PSの肌触りに及ぼす摩擦方向，接触圧および環境温の影響を検討する。

【方法】試料は現在市販されているPS6種を用いた。供用試料は，成人女子の標準体型に近似する下半身マネキンに試料PSを着装させ，その大腿前面部からPS布を採取して作製した。この供用試料を被験者の大腿前面部中央上で移動させ，その時の肌触りをSD法調査用紙に申告させた。①摩擦方向の影響を検討するために，供用試料を大腿部～膝部方向（順方向とする）と膝部～大腿部方向（逆方向とする）に移動させ，被験者6名ついて肌触りを調査した。ここでは，PSを構成する糸と繊維についても調査を行った。②接触圧の影響を検討するために，接触圧を10～200gf/10cm²の範囲で変化させた。被験者は30名とした。尚，①と②は，環境温25±1℃，湿度50±10%の環境条件下で実験を行った。③環境温の影響を検討するために，20±1℃と30±1℃の環境条件下で肌触りを調査した。湿度は50±10%とした。ここでも被験者は30名とした。

【結果】①摩擦方向が肌触りに及ぼす影響は，糸と繊維で顕著に見られた。②接触圧と肌触りとの関係を見ると，痛みやザラザラ感のように，接触圧の増加と共に強い皮膚刺激感を感じたSD法調査項目と，くすぐったさのように，接触圧に依存しない項目とがあった。③環境温30±1℃での肌触りは，20±1℃の場合に比べてひっかかり感やザラザラ感を感じやすかった。